



猪瀬博元会長の文化勲章受賞を祝って

萩原 宏†

このたび、本学会元会長猪瀬博先生が文化勲章受賞の栄に浴されました。先生ご自身にとってはもとより、本学会にとっても大きな荣誉であり、会員諸賢と共に心から先生にお祝いを申し上げたいと存じます。

猪瀬先生は昭和2年東京都にお生まれになり、昭和23年東京大学第二工学部電気工学科をご卒業、昭和31年東京大学工学部助教授、昭和36年同教授、昭和62年学術情報センター所長に就任され、現在に至っております。この間、東大では、教育用計算機センター長、大型計算機センター長、文献情報センター長、工学部長を歴任されますと共に、本学会の理事、副会長、会長を歴任されましたほか、電子通信学会をはじめ、多くの学会などの役員、委員などをつとめられ、昭和60年より日本学術会議会員として活躍しております。

さらに、国際的にも多大の活躍をされ、IEEEの編集委員や通信協会副会長をつとめられ、また、多くの国際会議の日本開催を推進され、それらの論文委員長、組織委員長として中心的役割を果たしております。このほか、数々の国際的貢献により、全米科学アカデミー、全米工学アカデミー、アメリカ哲学協会、スウェーデン王立理工学アカデミーの外国人会員に選出され、IEEEのフェロー、大英王立研究所名誉会員に推挙されております。

先生は通信工学、情報工学の広範な分野において誠に多岐にわたる研究を進められ、多大の業績を上げられました。

第一は電話トラヒックに関する研究であり、世界最初の全電子式トラヒックシミュレータを完成されたのは特筆すべきであり、この研究により、工学博士の学位を取得されました。

引続いて、時分割デジタル電話交換方式に関する研究を進められ、顕著な業績をあげ、また、これに関連するデジタル伝送方式にさまざまな知見を加えて国の内外から賞賛されております。

特に、デジタル電話交換におけるタイムスロット入換え方式の発明は今日隆盛のデジタル電子交換機の必須技術として高く評価されており、後年この業績により日本学士院賞、マルユーニ国際学術賞、電子通信学会業績賞、松永賞など多数の荣誉を受けておられます。このほかデジタル伝送に関するA-D変換、相互同期などの研究業績も高く評価されております。

さらに、昭和40年代には、新たに道路交通管制の問題に取り組み、広域道路網における交通信号機の集中制御方式を確立し、東京都道路交通管制システムの開発に大きく貢献されました。

また、データ通信、コンピュータ通信の研究を推進され、大学間コンピュータネットワークの開発の主導的役割を演じ、全国の大学を結ぶN-1ネットワークとして実用化されました。この研究は我が国最初の全国規模のコンピュータネットワークを開発完成されたものとして内外からの大きな反響がありました。

引続いて、図形、画像、文書などを対象とするいわゆる原文書情報のデータベースに関する研究を進められました。特に、オンライン・リモートアクセス可能な原文書データベースシステムに関する研究成果は高い評価を得ております。

最近では、学術研究の情報依存性の重要性に着目して、学術情報システムの開発推進とサービスに対して主導的な役割を果たしております。

このような多彩な研究の成果は数多くの学術論文として発表され、また、多数の著書として発刊されており、これらに対し、本学会の功績賞のほか電子情報通信学会その他から数々の論文賞、業績賞あるいは著述賞などが贈られております。

先生はこのような数々の素晴らしい業績をあげて来られましたが、なお春秋に富む御身であります。ご健康に留意され、今後益々のご活躍を期待すると同時に、本学会の発展のために一層のご指導をお願いして、祝意に代えます。

† 本学会長 龍谷大学